

経営比較分析表（平成29年度決算）

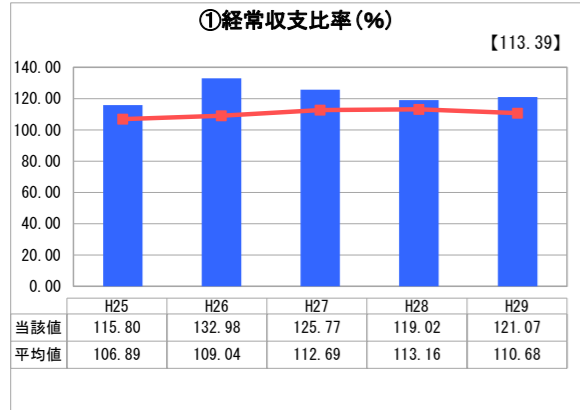
岩手県 滝沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	81.28	90.37	3,349	

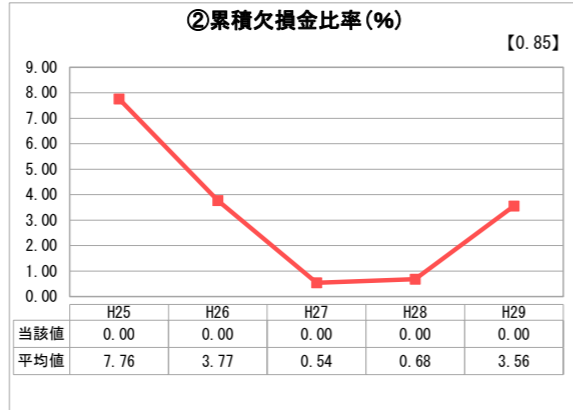
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
55,152	182.46	302.27
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
49,622	56.04	885.47

■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

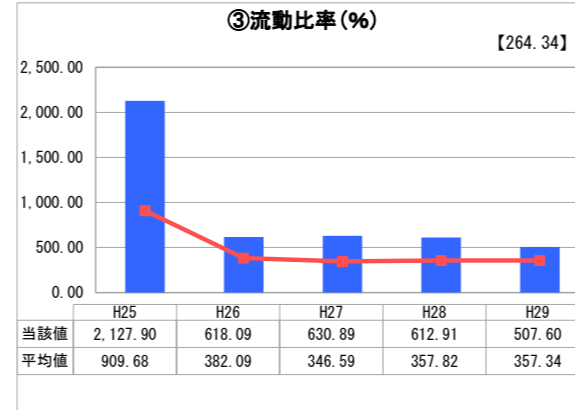
1. 経営の健全性・効率性



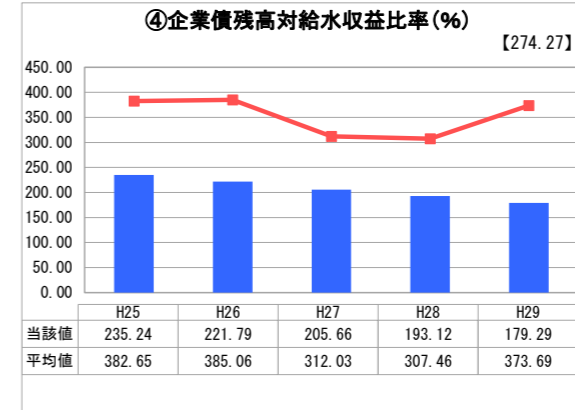
「経常損益」



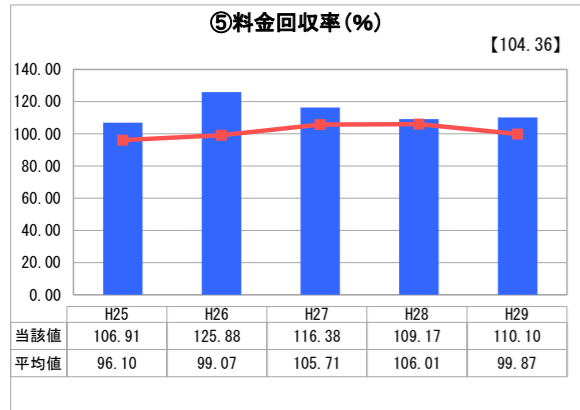
「累積欠損」



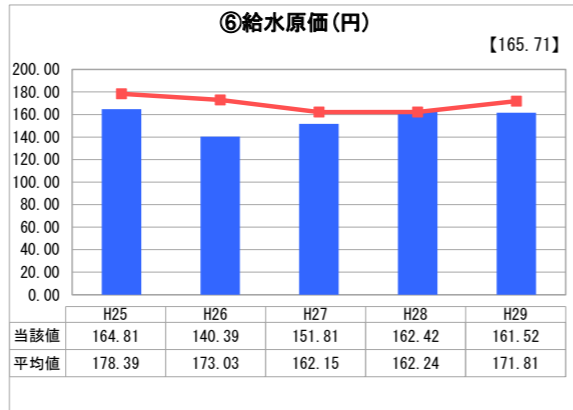
「支払能力」



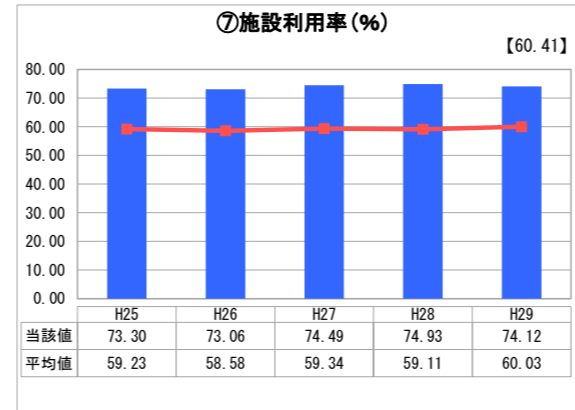
「債務残高」



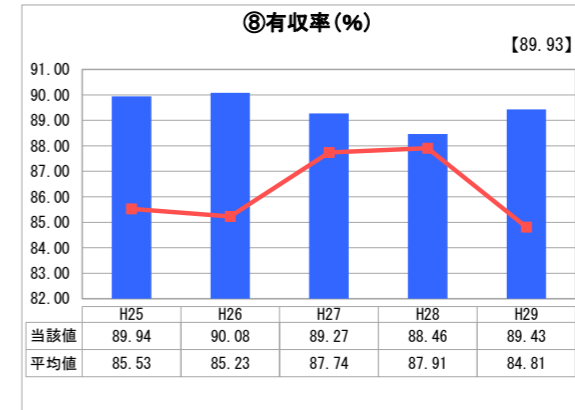
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

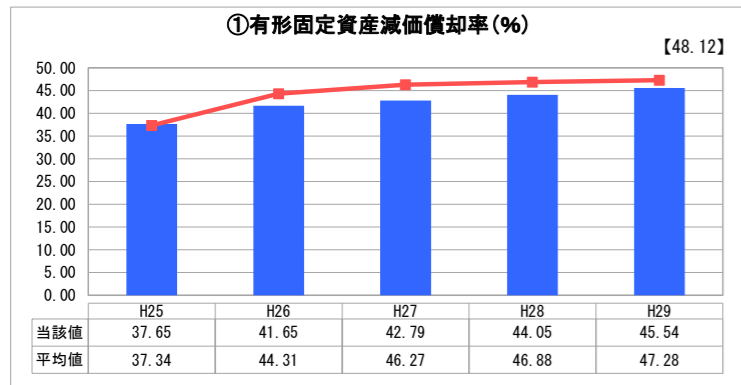


「施設の効率性」

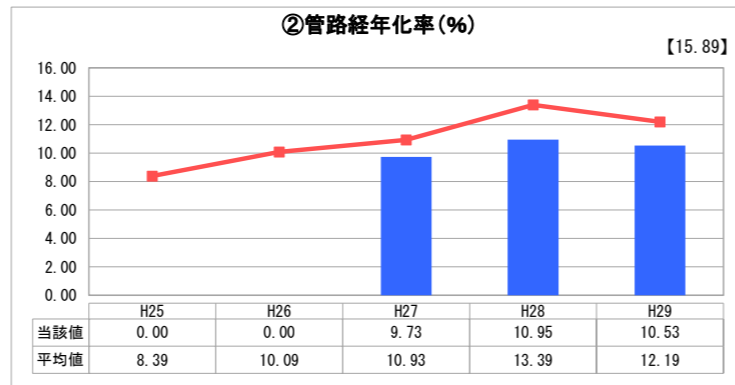


「供給した配水量の効率性」

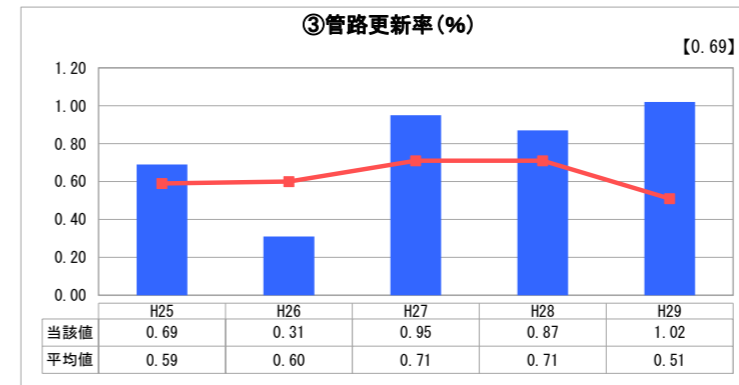
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性・効率性を示す指標は、いずれも全国平均や類似団体の経営状態よりも良好なものとなっています。

①②経常収支比率が100%以上で、累積欠損金もないことから、経営状況は良好であるといえます。

①⑤経常収支比率が100%以上で、料金回収率も100%を超えていることから、給水収益で給水に係る費用を賄うことができる健全な経営状態といえます。

④企業債残高対給水収益比率は、全国平均や類似団体と比較して低い値となっており良好な状況となっていますが、簡易水道との統合により起債償還を引き継ぐことから、適正な財源確保を見込んでいく必要があります。

⑦⑧施設利用率は、平均値より高い値で推移し、有収率も90%に近いことから、施設が効率的に利用され、収益につながっているといえます。

2. 老朽化の状況について

本市の水道施設は、現在のところ老朽化の問題は顕著になっていません。

①有形固定資産減価償却率は年々上昇してきており、類似団体の全国平均よりは低い値であるものの、傾向としては老朽化が進んでいる状況です。

②③管路経年率は類似団体の全国平均と比較して低い値で推移しており、管路更新率も上昇全国平均値より高いことから、管路の更新が着実に進んでいる状況ですが、今後管路の更新投資を増加していく必要性が高まっています。

全体総括

当市の水道事業は、現在のところ効率的な経営がなされていますが、今後管路等施設の更新や簡易水道の統合により引き継ぐ起債償還のための資金需要が増加し、経営状況に厳しさが増してくるものと予想されます。

このため、将来必要と見込まれる管路等の施設更新費用と投資可能額に基づき、更新需要の平準化や施設規模の適正化、水道料金の見直し検討を行いながら、経営の安定化に努めていく必要があります。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。